

# さようならドイツ左翼党

ドイツ左翼党は、"普通"で（有権者に）"受け入れられる"政党になろうとするあまり、戦争推進派の急進中道連合による再軍備の愚行に加わった。

ヤニス・バルファキス

Z ネット 2025 年 3 月 28 日

<https://znetwork.org/znetarticle/goodbye-linke/>

この 1 週間は、歴史に残るものとなった。ドイツ議会は、連邦政府の財政を赤字に転落させる度合いに関わらず、軍事費を無制限に支出できるようにするため、憲法上の債務上限規定を改正した。一方で、病院、教育、消防士、幼稚園、年金、環境技術などへの投資には、財政的な寛大さは一切適用されない。簡単に言えば、生活費に関しては、緊縮財政は依然としてドイツの憲法秩序の一部であるのに、死への投資だけが緊縮財政の憲法上の絆から解放されたのだ。

ドイツ憲法にこのような驚くべき変更を加えることになった根本的な理由は単純である。ドイツの自動車メーカーは今や競争力がなさすぎる。ドイツ国内でも海外でも、一般市民に自動車を、利益を上げて販売することができないのだ。そこで、ドイツの自動車メーカーは、使われなくなったフォルクスワーゲンの生産ラインでラインメタル社が製造する戦車をドイツ政府が購入することを要求している。このために国家が費用を負担するには、政府赤字に関する憲法上の制約を回避する必要に迫られた。常に大企業の利益を優先する中道政党は、反国民的なこの憲法改正を推進するために結集した。この改正により、ドイツは戦後の平和と軍縮への取り組みを放棄することになる。

憲法を改正するには、中道政党は連邦議会の両院、すなわち下院であるドイツ連邦議会（Bundestag）と、各州の規模に応じて代表が選出され、州政府の連

立政権が州を代表する上院である連邦参議院（Bundesrat）の両方で3分の2の賛成多数を確保する必要があった。中道政党は、任期満了を迎える連邦議会では3分の2の賛成多数を確保していたが、連邦参議院では深刻な問題に直面していた。最近の総選挙で健闘した「左派党」のドイツ左翼党（リンケ）は、同党が参加している州政府（州レベルの連立政権の一員）が連邦参議院の投票で棄権するよう働きかける機会があった。そうなれば憲法改正は阻止され、軍事ケインズ主義（国債による軍事費拡大）の陰湿な復活に致命的な打撃を与えることができたはずだった。残念ながら、ドイツ左翼党の指導部は、連邦参議院での投票権という彼らの権限を行使してこれを阻止することを選択しなかった。彼らは、端的に言えば、危険で極めて負担の重い再軍備という愚行に走る好戦的な急進的中道派に加担したのである。

当然ながら、左翼党の支持者たちは激怒しており、党が参加している連立政権の解消と関係者の追放を求める声さえ上がっている。左翼党はパレスチナでの大量虐殺への抗議に消極的で、抗議する人々にたいして政府が全体主義的な対応をしていることは、ドイツ国内だけでなく国外の進歩派の目にも左翼党のイメージを損なうものとなっている。

過激化し、排外主義や好戦的な極右へと常に傾倒する中道派から「受け入れられる」ことに躍起になっている指導部ほど、左派政党の倫理的立場を損なうものはない。左翼党指導部がイスラエルのジェノサイド的アパルトヘイト政策に目をつぶる必要があると考えること自体、すでに十分ひどいことである。今週、彼らは政治的な後退への次のステップを踏み出した。連邦参議院での票決により、1945年以来初めて、軍事的ケインズ主義をドイツの憲法に定着させたのだ。

さようなら、左派党。そして幸運を祈る

筆者のヤニス・バルファキスはギリシャの経済学者で、左派政権で一時財務省を務めた。独自の欧州左派運動を展開している。

【翻訳チェック 田中靖宏】